

宝ヶ池周辺の遺跡から見る森の利用と歴史 5

－松ヶ崎城跡と遺跡の数々から地域を読み解く－

2014年3月22日

(公財)京都市埋蔵文化財研究所

吉崎 伸

はじめに 今回は宝ヶ池周辺の歴史について、学習したいと思います。宝ヶ池周辺には原始から中・近世まで多くの遺跡があります。これらの遺跡を散策して歴史を体感してみましょう。

① 松ヶ崎城

中世に岩倉地域を治めていた山本氏の最前線基地と位置づけられています。天文5年(1536)におこった天文法華の乱の際、天台宗徒の攻撃により落城したとの記録があります。山上の小規模な城(砦)とみられ、現状では一部に堀切跡が認められます。

② 林山古墳群

古墳(古墳時代のお墓)があるとみられますが、実態は不明です。古墳時代の焼き物(須恵器:すえき)が散布していることが確認されています。

③ 松ヶ崎廃寺

松ヶ崎廃寺は平安時代中期に源保光によって建立された「松ヶ崎寺」と考えられ、後に「歓喜寺」と名をあらためて、延暦寺の末寺になりました。ところが、鎌倉時代の徳治2年(1307)に時の住職が天台宗から法華宗に改宗して「妙泉寺」となりました。天文法華の乱で焼亡しますが、天正3年(1575)に再建されます。大正7年に近くの「本涌寺」と合併し、現在の「涌泉寺」となり、昭和9年には寺域の一部に松ヶ崎小学校が建てられました。松ヶ崎小学校で行われた発掘調査では、妙泉寺に関する石垣や土塁などが見つかかり、さらにその下からは平安時代のお堂や庭園の跡も見つかっています。校舎の北側には調査で見つかった「妙泉寺」の石垣の一部が復元展示されています。



「妙泉寺」の遺構



平安時代の建物跡



平安時代の園池と景石

④ 植物園北遺跡

府立植物園の北側一帯に広がる弥生時代から古墳時代初めごろのムラの跡です。これまでに100棟以上の竪穴住居跡が見つかっており、京都盆地では最大級の規模を誇っています。また、縄文時代のお墓や奈良時代の竪穴住居跡、平安時代から室町時代の建物跡や井戸跡なども見つかっています。



古墳時代の竪穴住居



古墳時代の土器（壺とカメ）

⑤ 深泥池

今から数万年間前は氷河期とも呼ばれ、大変寒い時代でした。この頃の京都には旧山背湖と呼ばれる湖が広がっていました。氷河期が終わると、この湖は干上がり、やがて岩倉盆地や京都盆地になりました。その中に取り残された湖の一つが深泥池で、ここには氷河期の動植物が生残っています。

⑥ 深泥池窯跡

古墳時代の焼き物（須恵器）を焼く窯跡が、深泥池東岸の山の斜面で2基、南岸で1基確認されています。

⑦ 幡枝古墳群

山頂から北斜面、平地にかけて20基以上の古墳が確認されています。古墳の石室の石が露出しているものも認められます。

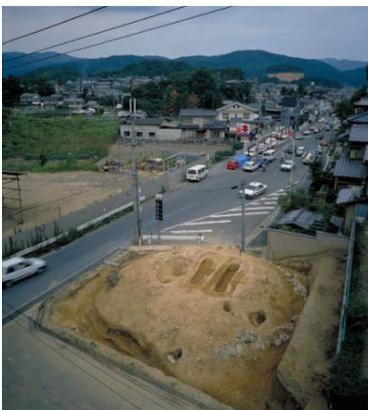
⑧ 幡枝2号墳

平成元年に道路の拡幅工事に伴って1基の古墳が発掘調査され、墓穴から鉄剣と鉄刀が見つかりました。

⑨ 史跡 栗栖野瓦窯跡

小高い丘の周囲に、屋根の瓦を焼く窯跡が多数見つかっています。平安時代の文献にある「栗栖野瓦屋」と呼ばれる官営の瓦工房跡と考えられており、ここで生産された瓦は、平安宮や東寺、西寺などの宮殿やお寺に使われました。

平安時代の窯業の実態を知る貴重な遺跡として、国の史跡に指定されています。



⑧ 幡枝2号墳



⑨ 栗栖野瓦窯跡



瓦窯跡